欺瞞に対する同意傾向と自己愛傾向及び攻撃性

石川 悟

(北星学園大学文学部)

キーワード：欺瞞，自己愛傾向，攻撃性

Relationship among Approval for Deception, Narcissistic Personality and Aggression

Satoru ISHIKAWA

(School of Humanities, Hokusei Gakuen University)

Key words: deception, narcissistic personality, aggression

目 的

他者を騙す、あるいは欺く、といった種類の嘘は、他者が認識していること、そして他者が自身について認識しているであろうことについて操作することが求められ、高度で複雑な認知機能が必要な社会的な行為だと考えられる。欺瞞により他者を騙す、欺くという行為が、どのようなプロセスによっておこなわれるかという認知科学的な解明(石川, 2010)は、人の社会的知能の理解をもたらすと考えられるが、同時にこのような欺瞞をおこなう人々がどのような心的傾向を持つのか、という点を明らかにすることも、人の社会的行為の特徴の理解にあたり重要となる。

他者を騙すあるいは欺くという行為は、事実と異なる情報を他者に伝え自己の利益を得ることから、他者に対する攻撃とともに自身の防衛という側面を持つ。これまで、自己愛傾向の高い者は他者への攻撃性、特に「言語的攻撃」をおこなう傾向が高いことが複数の研究で示されている。したがって、騙しや欺きをおこなうことと、他者への攻撃性や自己愛傾向との間には、何らかの関係が認められると考えた。

本研究では、事実と異なる他者の情報を伝えることで他者をけなし自身の優位性を守る「攻撃的欺瞞」と、事実と異なる自身の情報を伝えることで自身の優位性を守る「防衛的欺瞞」、そのそれぞれをおこなおうとする者に対する共感の程度と、自己愛傾向および他者への攻撃性という性格特性との関係について検討した。

方 法

質問紙を用いて欺瞞に対する共感の程度、および自己愛傾向と他者への攻撃性の測定をおこなった。

被調査者 大学生198名(男性72名、女性115名、不明11名)。
質問紙 欺瞞をおこなおうとする者に対する共感の程度は、それぞれ7事例からなる「攻撃的欺瞞質問紙(質問紙A)」と「防衛的欺瞞質問紙(質問紙B)」の2種類の質問紙を用意し、被調査者には質問紙AかBのどちらかの質問紙に回答させることで測定した。

「質問紙A」では、事実と異なる他者の情報を伝えることで他者をけなし自身の優位性を守る「攻撃的欺瞞」をおこなおうとする欺瞞企図者が登場する事例を読ませた後で、欺瞞企図者に対する被調査者の共感の程度を、「1. 悔しさから欺瞞企図者のように言いたくなるが、言わない。」「2. 悔しさから欺瞞企図者のように言いたくなるし、言う。」「3. 欺瞞企図者のような悔しさや、こう言いたくなる気持ちにならない。」のいずれか1つを選択させ測定した。

「質問紙B」では、事実と異なる自身の情報を伝えることで自身の優位性を守る「防衛的欺瞞」をおこなおうとする欺瞞企図者が登場する事例を読ませた後、欺瞞企図者に対する被調査者の共感の程度を「質問紙A」と同様に回答させた。

同時に、自己愛人格目録短縮版(小塩, 1998)により被験者の自己愛傾向を、敵意的攻撃インベントリー(秦, 1990)の「言語的攻撃」因子と「間接的攻撃」因子により被験者の他者に対する攻撃性を測定した。

結 果

欺瞞企図者への共感の程度と自己愛傾向および攻撃性の関連を調べるために、各事例への回答結果(“1”, “2”, “3”)を回答要因(被験者間要因)とし、自己愛傾向と他者への攻撃性の得点を従属変数として分散分析をおこなった。その結果、質問紙Aではほぼ全ての事例で「注目・賞賛欲求」と「間接的攻撃」に、半数以上の事例で「言語的攻撃」に回答要因の主効果がみられ、質問紙Bでは半数以上の事例で「優越感・有能感」「間接的攻撃」に回答要因の主効果が見られた(表1)。

また、各質問紙において“1”と4回以上回答しかつ“2”と回答しなかった者をタイプ①、1事例以上“2”と回答した者をタイプ②、“3”と4回以上回答しかつ“2”と回答しなかった者をタイプ③とし、この3種類をタイプ要因とした分散分析をおこなった。その結果、質問紙Aでは「注目・賞賛欲求」「自己主張性」「言語的攻撃」「間接的攻撃」で、質問紙Bでは「優越感・有能感」「言語的攻撃」「間接的攻撃」でタイプ要因の主効果が見られた(表1)。

表 1. 各性格特性得点の分散分析結果 (+: $p < .1$, *: $p < .05$, **: $p < .01$)

性格特性	質問紙	事例							タイプ
		1	2	3	4	5	6	7	
注目・賞賛欲求	攻撃	3.96*	3.37*	6.59**	2.38*	2.89*	3.11*	2.43*	6.70**
	防衛	.20	.23	.55	.37	.68	.40	.35	1.01
優越感・有能感	攻撃	9.53**	1.04	.85	1.71	1.73	3.08*	.65	1.85
	防衛	3.08*	1.96	3.35*	4.24*	8.65**	7.91**	1.74	8.36**
自己主張	攻撃	1.87	2.13	1.55	1.66	2.66*	2.10	.91	5.30**
	防衛	.63	.40	.51	.14	.11	3.47*	.50	.84
言語的攻撃	攻撃	6.12**	2.39*	12.22**	2.62*	2.07	5.86**	5.42**	8.40**
	防衛	2.27	.21	1.78	2.30	.06	2.05	.23	3.81*
間接的攻撃	攻撃	9.09**	3.54*	4.50*	4.95*	11.18**	7.65**	5.92**	14.40**
	防衛	.71	2.68*	3.41*	2.51*	7.13**	3.94*	1.80	8.07**

また、自己愛傾向および他者への攻撃性の得点の高低と回答タイプとの関係を検討した結果、質問紙Aでは「注目・賞賛欲求」「自己主張性」「言語的攻撃」「間接的攻撃」で、質問紙Bでは「優越感・有能感」「間接的攻撃」で有意な偏りが見られた。

考 察

欺瞞企図者への共感の程度と自己愛傾向と他者への攻撃性との関係を検討した結果、欺瞞企図者に共感する程度は自己愛傾向および他者への攻撃性の程度との関係が示された。また「注目・賞賛欲求」「自己主張性」の高い者は「攻撃的欺瞞」企図者へ、「優越感・有能感」の高い者は「防衛的欺瞞」企図者へ共感する程度が高く、自己愛傾向の違いにより共感する欺瞞の種類が異なる事が示された。このような傾向が実際に欺瞞を行うこととどの程度関連しているか明らかではないが、騙しや欺きという行為の理解において性格特性も考慮すべきことが示唆された。

謝 辞

本研究は、2009 年度北星学園大学文学部卒業生 橋本麻未 さんの多大な貢献・協力のもとに行われた。